第8号
2011.Winter

✚医療と地域をつなぐコミュニケーションマガジン

クォータリー（季刊）
まちだ市民病院

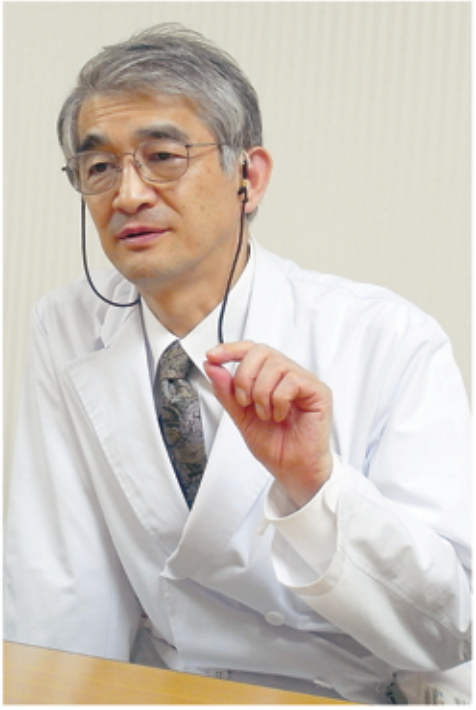
vol.8

編集・発行／町田市民病院
〒194-0023　町田市旭町2-15-41
TEL.042-722-2230（代）
www.machida-city-hospital-tokyo.jp/

Dr's message

大山行雄放射線科部長にきく

「画像を読み病気を見つける」



Ｑ　画像診断の量はますます増えていますね。

大山　単純なＸ線撮影だけでなく、超音波、ＣＴ、ＭＲＩ、ＲＩなどの検査が増えてきましたし、血管撮影などの技術も高くなってきました。普通の写真は表面しか写りませんが、私たちの扱う画像では身体の中を通す光線によって身体の中の状態が現されます。どこになにが映っているかを読み解きます（読影）。

Ｑ　読影するのに大事なことは？

大山　慣れ、つまり経験から学ぶことの積み重ねでしょうね。身体のどこに何があるか。正常の身体の構造を頭に入れておくことも大切です。学生時代は解剖学で学びます。正常と異常の写真を見て比較することもしました。

Ｑ　機器の進歩もめまぐるしいのでしょうね。

大山　血管撮影は血管に管を入れて造影剤を流し脳や心臓、腹部などの血管を映しますが、危険性をともなう検査です。それに対してＣＴやＭＲＩを用いて血管を映し出す方法が開発され、危険性はより少なく行えます。ただし、細い血管までは精密に描出できません。それはこれから開発されていくでしょう。

Ｑ　認知症もＭＲＩで分かるんですね。

大山　脳の萎縮がどうか、海馬（かいば）という場所の状態などで病気が推定されます。ＲＩ検査で血流が低下しているか否かで、より早期の変化を見る方法もあります。しかし、まず、症状や経過、神経心理学的検査などによる評価が第一であり、他の検査も加え、それらとともに総合的な判断によって診断されます。

Ｑ　地道な作業の積み重ねという気がしますが「よかった」と思い出されることはありますか。

大山　ガンの手術をされた患者さんで、再発がないかの検査をしていたのですが、たまたま結核が見つかったことがあります。次の診察予定日を待たないですぐに連絡しましたが、よかったと思いました。すぐ治療されたでしょうから。

Ｑ　放射線科を選んだ理由は？

大山　大学を卒業する頃（昭和48年）自分は内科志望でした。放射線科に情熱を持った先生がいらして、あるとき、私と同じように内科志望の友達が、先輩から先生に紹介され、呼ばれたのです。友達は「『放射線科をやれ』といわれるから、断るのに一緒にきてくれ」と頼むのでついて行きました。その頃は日本の大学の放射線科は放射線治療と研究が主流で、放射線診断（画像診断）はあまり発展していませんでしたが、先生は「全ての診療科に役立つ放射線診断を行う、日本で新しい放射線科の教室をはじめたい」と熱く語られ、説得されました。

Ｑ　それがきっかけですか。

大山　ええ、友だちも私も、先生の熱意に負けてしまいました（笑）

Ｑ　何枚も画像を読んでおられると、息抜きが必要でしょう？

大山　いいえ、休みなく見ています（笑）

以前、大学に勤務している頃は写真を家に持ち帰ってから見たり、帰宅後にまた病院に戻って画像と対面していることもありましたが、最近はコンピューターに入っているし、個人情報の保護の面もあって病院でそのまま見続けています。

町田市民病院
大山（おおやま）　行雄（ゆきお）放射線科部長

Profile
昭和48年　慈恵会医科大学卒　聖マリアンナ医科大を経て、平成7年から町田市民病院勤務。同9年10月から放射線科部長。

四季折々
～しきおりおり～

▼90才近くになった松下幸之助さんにインタビューしたことがある。当時の松下さんは言葉が不明瞭で秘書が通訳するほどだったし、目も弱っていた。それでも自社製品（松下電器）のテープで耳からの読書を続けていた▼大学生が吹きこんだのをイヤホンをつけて聴くのである。ベストセラー「ジャパンアズナンバーワン」も完読（聴）し、著者のエズラ・ボーゲル教授と日本経済をめぐって議論していた▼小学校を出て住み込みで働き、日本一の高額所得者になって、超高齢に達しながら、なお学ぼうとする気概に心打たれた。かつて日本人にとって本は格別の存在であった。読書は即勉強であったし、新しい知識を吸収する最強のツールであった▼当院の9階に図書コーナーがあるのをご存知だろうか。まだ整備中で、患者さんの知的欲求を満たすものとは言えないが、今後充実に努めたい。患者さんの〝図書館〟である。時間があればのぞいて下さい。

（四方）

2010年度第二回『町田市病院事業運営評価委員会』開催

2010年度第二回の町田市病院事業運営評価委員会が10月20日、開催されました。当院からは中期経営計画の上半期実績、財政の見通しについて報告しました。委員からは患者の満足度調査やアンケートの公表、医師の過重労働対策や、休日勤務体制の工夫、地域連携の強化などについてのご提案ご意見をいただきました。

ご出席の委員のみなさん

赤星透（北里大学病院副院長）
木藤一郎（旭町2丁目町内会長）
牧　宏暢（町田市医師会副会長）
増岡和子（病院ボランティア）
水町浩之（経営コンサルタント）
山内芳（税理士）50音順、敬称略

町田市民病院ってどういう病院？

連載7 がん化学療法と薬剤師

近年、がん化学療法は、新規薬剤の開発や、遺伝子診断の改善により著しい進歩をとげています。抗がん剤は、他の薬剤と比べて副作用を伴うことも多く、また治療においては多くの併用療法があります。

そのため投与量、投与間隔、副作用を予防する薬剤などを考慮した治療計画（レジメン）が重要となります。現在、当院では約150種類の治療計画が登録されています。

▲薬剤科スタッフ

その上でがん化学療法管理委員会を設け、医師、看護師、薬剤師等、多職種が参加して、月間約400件の抗がん剤治療の内容を精査した上で、治療を行っています。

投与患者さまへの薬剤師の関わりとしては、入院時における薬剤管理指導業務があります。投与前の面談から患者さまの全身状態、病気への理解、注意すべき初期症状、予想される副作用、点滴当日の流れや投与時間についての指導を行っています。

▲抗がん剤調製時(保護手袋を着用、安全キャビネットで調製)

がん化学療法は複数回実施されることが多いので、副作用を予防し、がん化学療法を安心して受けていただけるように努めています。

関係する医療スタッフには、新規薬剤の特徴や副作用についての説明、抗がん剤の作用を考慮した適切な取り扱い方法と、注意事項などについての説明を行っています。

▲患者さまごとに運搬台へ、正確・迅速に整理

がん化学療法は、がん治療の一端を担い、その治療に関与する薬剤師は高度な知識や経験によりチーム医療を支える重要な柱の一つとなることが求められています。

▲病棟へ運搬される

化学療法後は、個々の患者さまに合わせた自宅での過ごし方、副作用への対応や注意が必要となります。そのために、医師・看護師・薬剤師などの医療スタッフが協力して、がん化学療法による治療と在宅生活へのサポートにあたることが重要であると考えています。

（薬剤科がん化学療法担当）

教えて看護師さん Vol.8

～今回は、NICUを紹介します！～

NICUってどんなところ？

生まれたばかりの赤ちゃん（新生児）を対象とした集中管理治療室のことです。NICUへ入院する赤ちゃんは、年々増加しています。当院では、2008年10月から周産期センターとして産科と連携を取りながら、入院を受け入れています。

NICUのある病院は限られています。新生児用機器など設備の確保、新生児科医が24時間対応できる体制、赤ちゃん3人以下に1人の看護師が居ることなど開設には条件があります。このため町田市内には、当院の6床だけしかなく、NICUは、いつもほぼ満床状態です。

状態が落ち着き、ある程度体重が増えて家に帰るまでの赤ちゃんは、後方病床（GCUというお部屋）に移ります。NICUで、ご両親が育児の練習を少しずつ始め、GCUでさらに深めて不安なく退院できるようにします。当院のGCUは、6床で、NICU・GCU合わせて12床あります。

赤ちゃんはどんな理由で入院しているのでしょうか？

出産予定日より早く生まれた早産の赤ちゃん、体重が少なく生まれた低出生体重児、先天性の病気を持つ赤ちゃん、外の環境に慣れず呼吸が苦しくて入院になる赤ちゃんなどです。入院期間は、その赤ちゃんによって様々です。NICUの赤ちゃんたちは、小さな体で精一杯がんばっています。

お腹から出てきた赤ちゃんにとって外の世界は、どんな感じなのでしょうか？

「なんて眩しいのだろう。」「いろいろな音がうるさいな。」「お母さんのお腹の中がいいな。」などと思っているかもしれません。そんな時、お腹の中で聴いていた優しいお母さんの声に癒され、抱っこしてもらい、やわらかい肌の感触があれば、赤ちゃんは安心できます。

▲「ポジショニング」をととのえています

赤ちゃんが安全に安心して過ごせる環境とは、どのようなものでしょうか？

健康な大人には影響の少ない細菌などによる感染症が、赤ちゃんには命を落としかねない危険なものとなることがあります。清潔な部屋の、暖かい保育器の中で過ごします。ベッドにいる赤ちゃんのために、部屋全体も暖かくなっています。

保育器の中では、お腹の中にいた時の身体を屈曲させた状態「抱っこされているような姿勢」で、安心して過ごせるように整えることをしています。タオルなどで囲い込みを行い、「ポジショニング」と呼んでいます。

赤ちゃんたちは、自分自身の力とお母さんやお父さんの力で元気になり、大きく育っていきます。面会中の触れ合いを大切に、ご家族の元へ無事に帰ることができるよう、支援しています。

▲赤ちゃんには、常に優しい支援を

大人になった私たちも、かつては小さな赤ちゃんでした。赤ちゃんのつぶらな瞳を見つめてみてください。純真な優しさ、暖かい気持ちがこみ上げてきませんか。そんな気持ちを、いつまでも忘れずにいたいものですね。私たちの優しく温かい気持ちを育んでくれているのは、実は赤ちゃんたちなのかもしれません。赤ちゃんの不思議な力に感謝しつつ、ご家族が退院後も安心して明るく楽しく優しい子育てができることが、私達の願いです。

看護師復職支援研修を行っています！

当院では、離職中の看護師の方の復職を推進するため、東京都看護職員地域就業支援病院の指定をうけています。一定期間のブランクがあり、臨床への復帰に不安のある方を対象に、復職支援研修を今年度から開始しました。

久しぶりの患者さまへの対応への戸惑いや不安が少しでも軽減できるよう、そして、新たなスタートを切れるよう、当院全職員が仲間として復帰支援を行っています。

○研修応募電話締切
2011年1月28日（金）

○お申し込み・お問い合わせ
事務部総務課

vol.8
エッセイ
Essay

「患者さんの表情が変わる」

中尾音楽学院院長
中尾　澄子 さん

音楽学院をはじめて43年になります。横浜から小田急線「鶴川駅」近くに引っ越してきた頃、周囲は田んぼでした。蛙がゲロゲロ鳴いていました。時間があると家でピアノを弾いていましたが、通りがかりのお母さんから「家の子に教えて」と頼まれたのが始めたきっかけです。

当時はピアノやバイオリンを習わせるのがブームでした。子供たちはレッスンが終わるとザリガニを取って歓声を上げていました。そのうちに、フルートやチェロ、ドラム、声楽などに広がり、年齢も幅が出てきました。ハープも教えていましたが、当時は珍しかったですね。

私は間もなく経営専門になり、若い世代の方に講師をお願いしました。その後、学院の生徒の中から講師になった人もいます。プロも多く育ちました。外国留学したり、海外のオーケストラで活躍している卒業生もいます。

現在は、「音楽の力で、多くの方々の出会いと旅立ちをよりいっそう心に刻んでいただきたい」との想いで始めた演奏者派遣事業と音楽教室の二つを軸に、忙しい日々を送っています。

町田市民病院で演奏させていただくようになったのは、「病院にピアノがあるのに、誰も弾いてないんだよなぁ」という話を聞いてからです。年に3回、ボランティア・コンサートにお邪魔するようになりました。

10階の緩和ケア病棟でも演奏していますが、患者さんはベッドのまま会場に来られて「有難う」といってくださる。いい音楽は、治療にプラスになると感じています。

音楽を聴いた後、重い病の患者さんの顔が変わります。生きる勇気が湧いて来るような表情に変わるのを何回も目にしました。

音楽は身体の内面から人を元気にする療法として効果があると信じ、病院でのコンサートをこれからも続けたいと思っています。

Profile

中尾澄子（なかお　すみこ）
1968年12月、町田市能ヶ谷に音楽学院を設立。
1988年鶴川校に加え橋本校を開校。教育活動以外にも結婚式の音楽プロデュースも行う。
近年は、町田市民病院でボランティアコンサートを定期的に開催している。

市民公開講座を開催しました

12月4日（土）に市民病院3階講義室において市民公開講座を開催しました。

第11回目の開催となった本年の講演内容は、当院のリウマチ科・アレルギー科の緋田めぐみ部長による『関節リウマチとはどんな病気？～リウマチの診断と最新治療の話題』、薬剤科の上野雄一郎科長による『ちょっと気になる薬のはなし』の2部構成でした。

当日は、幅広い年齢層の方々約90名が、両講師の話に熱心に耳を傾けてくださいました。講演会後のアンケートでは「非常に参考になった」「分かりやすい説明だった」等のお褒めのお言葉とともに「更に詳しい説明が聞きたい」といったご感想も多数いただきました。あらためて各々のテーマへの関心の高さがうかがえる講演となりました。

今後も市民病院では市民の皆さまに公開講座や本誌、ホームページなど様々な形で、健康に関する情報を、提供していきたいと考えております。

編集後記

2011年はうさぎ年です。長い耳を立て周囲に耳をすます動物。長耳には「早みみ」の意味もありますが、発信と同時に患者さんから「聴く」ことにも力を入れたい。本年もどうかよろしくお願いします。